

7 農産第 4824 号
令和 8 年 2 月 2 6 日

地方農政局長等 殿

農産局長

「農作業における熱中症等対策総合パッケージ」の推進について

農業分野における就業者 10 万人当たりの死亡事故者数は増加傾向にあり、他産業と比べ高い状況にあること等を踏まえ、新たに策定された食料・農業・農村基本計画（令和 7 年 4 月 11 日閣議決定）では、農作業安全対策について、農業の持続的な発展を図る上での前提として取組を進めていく必要がある旨が位置付けられた。

こうした中、本日発表の令和 6 年における農作業死亡事故は 287 人と前年から 51 人の増加となった。死亡事故の発生月では 5～9 月が前年と比べて 52 人の増加（うち熱中症が 21 人）となり、高温期の死亡者数が急増したところである。

近年、地球温暖化の影響によって気温が上昇傾向にある中、熱中症等のリスク低減を図るためには、農業者の安全意識の向上対策を強化するとともに、農作業の省力化・軽労化を通じて熱中症等のリスクを低減する栽培方式への転換を進めることが重要である。

このため、別添のとおり、関連施策を「農作業における熱中症等対策総合パッケージ」として強力に推進することとしたので、貴職におかれては、貴管下の都道府県にこれを周知し、都道府県下の関係団体からの協力を得つつ、普及指導センター等に農業現場への指導体制を構築した上で、これを推進するよう指導ありたい。

農作業における熱中症等対策総合パッケージ

熱中症等の回避に向けた安全意識の向上

○研修の強化(熱中症等対策研修強化期間の前倒し)

より多くの農業者に早い段階から熱中症への注意を促すため、熱中症対策研修強化期間を1か月前倒(4~6月)。

この中で、熱中症や夏季の農作業事故の回避策をお伝えするとともに、ホワイト生産方式への転換の必要性を啓発。



○夏の熱中症等対策声かけ期間の新設

特にリスクが高い7~9月を新たに「夏の熱中症等対策声かけ期間」として設定し、関係機関を挙げて、各種メディアも活用した声かけ運動を展開。



熱中症等のリスクを低減する生産方式 ホワイト生産方式への転換

○スマート農業技術の導入

自動化技術やIT技術の活用を通じて、省力化・軽労化。
(例)・水管理の遠隔操作や自動化
・生育予測システムによる業務量の平準化

【支援策】スマ転事業(R7補正 156億円の内数)
R8当初 25億円の内数)



○農業支援サービスの活用

作業の外部化を通じ、農業者の高温暴露時間を軽減。
(例)・ドローンによる農薬・肥料散布作業の委託
・リモコン草刈機を有する事業者への作業委託

【支援策】サービス加速化事業(R7補正 156億円の内数)
R8当初 25億円の内数)



○農作物の高温対策

農作物の高温対策を通じて、農業者の労働環境も改善。
(例)遮光資材、細霧冷房、天窗、ヒートポンプの活用

【支援策】グリーンな栽培体系転換(R7補正 40億円の内数)
R8当初 5.7億円の内数)



※3月中に発出予定の令和7年地球温暖化影響調査レポートにも上記を記載

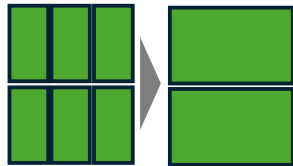
スマート農業技術・農業支援サービス・農作物の高温対策を組み込んだ ホワイト生産方式のイメージ

水田作の例

- 夏季における水田作の主要な作業は農薬散布、追肥、草刈、水管理等
- 農薬散布・追肥については農業支援サービス事業者の活用、草刈・水管理については、畦畔除去により草刈作業面積を縮減しつつ、スマート農業技術である自動水管理装置等の導入により、大幅な省力化・軽労化が可能



ドローンサービスによる農薬散布・追肥



畦畔除去による草刈の作業面積の縮減



自動水管理装置

果樹の例

- 夏季における果樹(りんご)の主要な作業は摘果、防除、除草作業
- 省力樹形(超高密植栽培)への転換による直線的な動線と作業の単純化に加え、摘果作業に高所作業台車・摘果剤、防除作業にトラクタ連結式防除機、除草作業に自動草刈機を導入することで大幅な省力化・軽労化が可能



省力樹形への転換



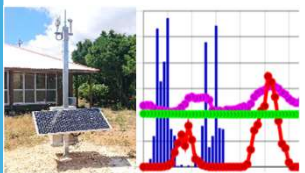
高所作業台車を利用した摘果作業



自動草刈機

畑作物の例

- 夏季におけるさとうきびの主要な作業はかん水作業
- かんがい未整備地区では、大型トラック等による散水が行われているが、微気象観測システムによる土壌水分やさとうきびの水ストレス状況を把握し、リモートによるかん水作業を行うことにより、省力化・かん水量の低減が可能



微気象観測システムによるデータ収集



遠隔操作によるかん水ポンプの起動

露地野菜(キャベツ)の例

- 夏季の作業は、除草や防除、収穫
- ドローンの導入による除草・防除等の省力化や、収穫機の導入による収穫作業時間の削減により、夏季の暑い時間の作業を削減



ドローンサービスによる防除



収穫機

施設園芸(トマト)の例

- 夏季における施設園芸の主要な作業は、吊り下ろし作業、農薬散布、葉かき、摘果、収穫作業等
- ヒートポンプ等を複合環境制御装置でコントロールしたり、ハウスの嵩上げや遮光剤の塗布によりハウス内の温度を低下



ドローンサービスによる遮光剤の塗布



高軒高ハウス